

グロース株ポートフォリオ分析

基準日: 2026年7月
作成: A. I. P 株式会社

セクターローテーション分析で選好する「情報技術・一般消費財・資本財」から厳選する成長株戦略

1 前提となるマクロ環境分析（2026年7月現在）

① セクターローテーション分析との整合

今月のセクターローテーション分析で「強気」評価とした情報技術・金融・資本財・素材・一般消費財のうち、高成長率・イノベーション性というグロース株的特性に合致する情報技術・一般消費財・資本財（ロボティクス／自動化領域）の3セクターから銘柄を厳選する。

② AI投資サイクルの調整は「押し目」と判断

半導体関連株は中東情勢の緊迫化を背景に短期調整局面にあるが、AI投資需要の構造的な強さは不変。調整局面はむしろグロース株の仕込み場と位置付ける。

③ インバウンド消費とEC・サブスクの成長持続

円安基調とインバウンド需要の回復により、消費関連・EC領域の成長ストーリーが継続。ロボティクス・自動化領域もAI設備投資の裾野拡大の恩恵を受けやすい。

④ 円安は輸出型グロース株の追い風、金利上昇はデリスカウント要因

ドル円162円台の円安は、海外売上比率の高い東京エレクトロン・アドバンテスト・ファーストリテイリングなどの円換算収益を押し上げる。一方、日米金利差の高止まりは高PER銘柄の将来キャッシュフローの割引率を引き上げる要因ともなり得るため、金利動向には引き続き注意が必要。

2 最適な構成比率と主要投資指標

■ ポートフォリオ目標配分

情報技術
(40%)

一般消費財
(30%)

資本財(ロボ)
(30%)

※セクターローテーション分析でオーバーウェイトと判定した情報技術・一般消費財・資本財のうち、特に成長性の高いテーマ（AI半導体・EC消費・ロボティクス自動化）に絞り込んで配分します。

■ ポートフォリオ予想総合指標（加重平均）

約 25%

平均売上成長率(前年比)

6銘柄

組入銘柄数

約 30倍

平均PER

3セクター

対象セクター数

約 20%

平均EPS成長率

10~15%

期待トータルリターン

3 採用銘柄・ETFの詳細分析

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
情報技術 東京エレクトロン (8035)	売上成長率: 約20% PER: 約28倍	中東情勢を背景とした半導体株全般の調整局面にあるが、先端ロジック・メモリ向け装置需要は底堅い。	半導体製造装置の世界大手として、AI投資サイクルの中核的な受益者。調整は押し目買いの好機。

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
情報技術 アドバンテスト (6857)	売上成長率: 約35% PER: 約35倍	AI半導体向けテスト需要の急拡大が続き、業績予想の上方修正が相次いでいる。	AIチップの検査工程で高いシェアを持ち、AI投資サイクルの中でも特に高い成長率を誇る銘柄。
一般消費財 メルカリ (4385)	売上成長率: 約15% PER: 約25倍	国内フリマアプリのユーザー基盤拡大に加え、金融事業（メルペイ）の収益寄与が拡大。	国内EC・フィンテック融合の代表銘柄として、消費関連グロース株の中核候補。
一般消費財 ファーストリテイリング (9983)	売上成長率: 約10% PER: 約32倍	インバウンド需要の取り込みと海外事業（特に北米・欧州）の成長が業績を牽引。	グローバルSPAブランドとして安定した高成長を持続しており、消費関連グロースの質的な核となる銘柄。
資本財(ロボ) ファナック (6954)	売上成長率: 約18% PER: 約27倍	AI・自動化投資の拡大を受け、工場自動化（FA）関連の受注が回復基調。	産業用ロボット・CNC装置の世界大手として、AI設備投資の裾野拡大を最も享受しやすい銘柄。
資本財(ロボ) キーエンス (6861)	売上成長率: 約12% PER: 約38倍	高収益なファクトリーオートメーション（FA）センサー事業が、設備投資需要の拡大とともに成長を続ける。	圧倒的な営業利益率を誇る優良グロース銘柄で、景気後退局面でも高い収益性を維持してきた実績がある。

4 資金投下・時間分散戦略（2段階投資の執行）

【第1弾】現在（2026年7月）：資金の50%を即時投入

半導体関連株の短期調整局面を「押し目」と捉え、まずは予算の半分を上記の配分比率（40:30:30）で買い付け、中長期の成長ストーリーへの投資を開始します。

【第2弾】秋口（2026年9～10月）：残りの50%を投下

11月米中間選挙前後のボラティリティ上昇局面でグロース株が大きく調整する場面があれば、残りの50%資金で押し目買いを執行し、取得単価を最適化します。

5 出口戦略（売り時・利益確定の目安）

■ キャピタル利益確定とリバランスの最適タイミング

① 情報技術：AI投資サイクルのピークアウト兆候が出た局面

半導体設備投資の伸び率鈍化や在庫調整の兆候が明確化した場合、段階的に利益確定を検討します。

② 一般消費財・資本財：長期保有（維持）またはリバランス

インバウンド消費とロボティクス自動化はいずれも複数年の構造的テーマであるため、基本は保有継続とし、四半期決算での成長率鈍化サインに注意しながら追随します。



本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の投資行動を勧誘・保証するものではありません。投資の最終決定はご自身の判断で行ってください。

A.I.P.株式会社 2026年7月作成